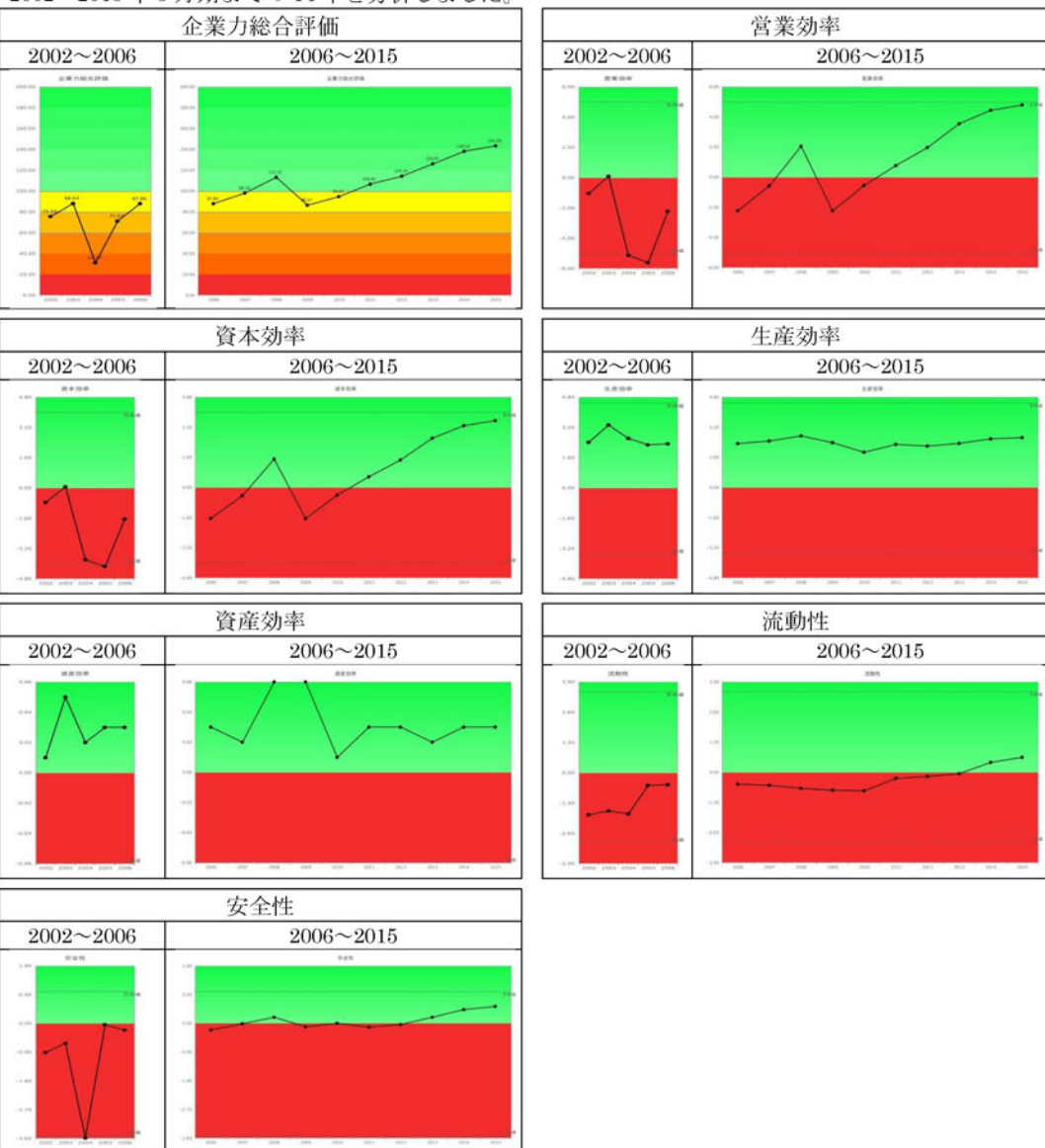


今回は、三菱自動車工業株式会社（以下、三菱自動車株）です。2000年、2004年の2度にわたる大規模なリコール隠し問題から地道に復活を遂げてきたのに、また今回の燃費不正です。6月17日、車両の燃費試験における不正行為に伴う顧客への支払い費用として、2016年度（2017年3月期）決算に約500億円の特別損失を計上すると発表しました。

2002～2015年3月期までの14年を分析しました。



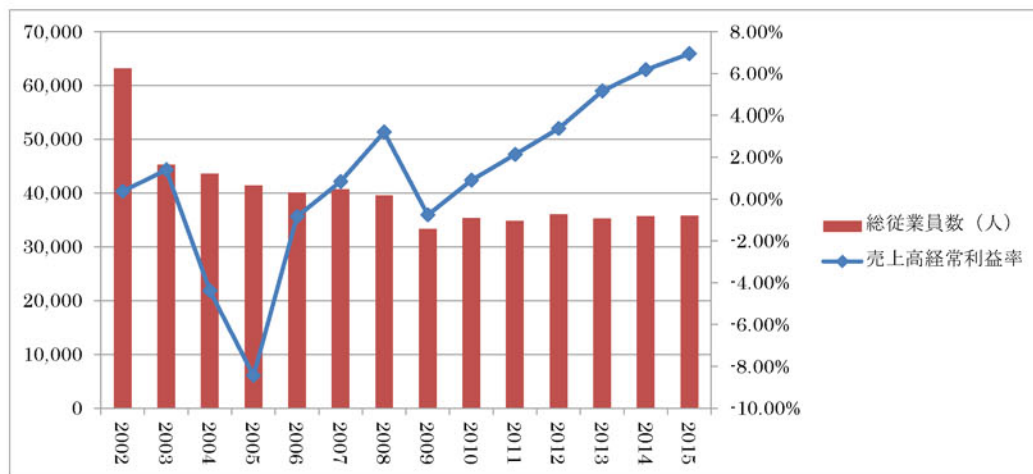
企業力総合評価は75→88→31（2004年）→71→87→98→113→86→94→106→114→126→138→143と推移しています。リコール隠し発覚で2004年31ポイントとなりましたが、破たん懸念状況からコツコツと改善し、リーマン・ショックを経て再び成長軌道を描いています。

営業効率（儲かるか）、資本効率（株主指標）も底値を打ったあと、リーマン・ショックを経て改善トレンド、ほぼ天井値になりました。

生産効率（人の利用度）は、青信号領域を安定しています。

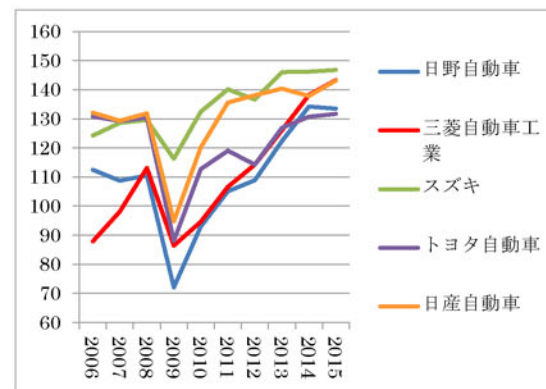
資産効率（資産の利用度）は乱高下していますが、これは不祥事やリーマン・ショックによる売上減少と、それに伴うリストラなどの影響です。

流動性（短期資金繰り）、安全性（長期資金繰り）は地道に改善してきました。



上記は、総従業員数と売上高経常利益率の推移です。2002年には63,000人超えた従業員は、2009年には33,341人と半数近くになりました。その中で、売上高経常利益率を上げ続けていました。

右は自動車各社の企業力総合評価の推移です。三菱自動車株は、他の自動車会社に比して、何ら遜色のない会社に立ち直っています。リコール問題は過去のこと、自社のV字回復を誇りに思い、適切な競争をすればよかったのではないのでしょうか。



### まとめ

正規の方法で測定しなおしてもバラツキの範囲内だから・・・との開発部の判断が背景にあったようです。新しい開発トップは日産自動車から呼ぶそうです。

**編集後記** たとえその道の専門家であっても、お客様を無視した勝手な独断はいけません。  
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 4-9-21 SARUKI ビル 4F 猿木真紀子税理士事務所  
Tel. 06-6631-4570 Fax. 06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp